

科目名	日本語 I	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			国際学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Japanese Language I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	はしもと しほ	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	橋元志保	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	総合的な日本語能力を向上させ、大学の学部・学科の授業を受講して、理解できるようになる。				
到達目標	この授業の単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力が身につきます。 1. 文法の基礎を理解し、語彙が増え、主要な基本文型を身につけて適切に使うことができる。 2. 正しい表記・文体で、論旨の通った日本語の文章が書けるようになる。 3. エッセイや批評文等の様々なタイプの日本語の文章を読み、内容を理解できるようになる。				
授業概要	本学の学部・学科の授業を受講できるレベルの日本語能力を育成することを目的とします。文法を理解し、主要な基本文型を身に付けながら、総合的に話す力・読む力・書く力を育成していきます。また、受講生の学修レベルに応じて、エッセイや批評文等の様々なタイプの日本語文を読み、読解力及び表現力も高めていきます。				
授業計画					
第1回	ガイダンスー文法と会話の復習ー				
第2回	基本文型の復習 I				
第3回	基本文型の復習 II				
第4回	文法と会話 Iー受身文とはー				
第5回	文法と会話 IIー使役文とはー				
第6回	文法と会話 IIIー「可能」と「自発」ー				
第7回	文法と会話 IVー「ら抜き言葉」と「さ入れ言葉」ー				
第8回	文法と会話 Vー敬語表現ー				
第9回	文法と作文 Iーテンスー				
第10回	文法と作文 IIーアスペクトー				
第11回	文法と作文 IIIー助詞についてー				
第12回	文法と作文 IVー命題とモダリティー				
第13回	読解 Iーエッセイを読むー				
第14回	読解 IIー批評文を読むー				
第15回	文法と作文 Vー感想文を書くー				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 基本文型・文法を一つずつ丁寧に解説していきますので、授業の後にも必ず、復習してください。また、漢字・熟語等は毎日少しずつ覚えていきましょう (1.5時間程度)。 2. 授業でも様々な本を紹介しますが、日本語の本や雑誌、新聞を少しずつでも良いので、読む習慣を身につけましょう (1時間程度)。 3. 覚えた文型や言葉を使って、日本人の友人たちと積極的に会話してみましょう (1時間程度)。				
履修条件 受講のルール	特にありません。ただ日本語能力の向上を目指し、真面目に学修に取り組むこと、特に授業中は出来るだけ母国語ではなく、日本語を使うように努めることが望ましいです。				
テキスト	資料を配布するか、ポータルサイトに掲載します。 『みんなの日本語初級 II』第2版・『みんなの日本語中級 I』(スリーエーネットワーク) ほか				

参考文献・資料	原沢伊都夫『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』（スリーエーネットワーク 2018年） 独立行政法人 国際交流基金 編著『まるごと 日本のことばと文化 中級1』（三修社 2017年）ほか
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、試験（50%）】を基に、総合評価をします。 1. 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。 2. 講義中に無許可で退出した場合は、欠席とします。 3. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない時は、履修または単位を認定できない場合があります。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13時00分～14時30分 / 木曜日 13時00分～14時30分 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	日本語もずいぶん上達し、友達とはかなりスムーズに会話できるようになったと思います。しかし、日常会話よりも、文章の読解や記述は、文法の知識が求められます。基本文型をしっかりとマスターし、語彙を増やして、大学の授業を理解できるレベルの日本語能力を身につけていきましょう。